

## 平成 21 年度秋期システムアーキテクト試験分析速報

2009,10,19 (株)アイテック 情報技術教育研究部

### 1. 試験全体の講評

午前 が前回の春期に比べて難易度が上がっている点を除くと、全体の難易度はアプリケーションエンジニア試験のときと同じ、例年どおりです。

午前 は難易度が上がり、午前 は従来の午前試験と同程度の難易度と判断します。午後 については、難易度の高い問題は、アプリケーションエンジニア試験のときの問 3 や問 4 に該当する難易度と問題量です。午後 については、例年どおり問題文中に挙がっているトピックを活用できるので解答しやすいと判断します。

### 2. 午前 試験（高度試験共通）の講評

新試験制度の高度区分試験では、従来の午前試験が、共通問題の午前（30 問）と試験区分ごとの専門分野の知識を問う午前（25 問）に分割されました。前回の春期試験では午前 問題はすべて、応用情報技術者試験の 80 問からの抜粋になっていましたが、今回の試験も同様でした。

出題内容に関して、前回試験では新傾向問題といえるものがほとんどありませんでしたが、今回は新傾向問題が増えており、次のようなものがあります。このため、難易度も全体に高くなったといえます。

- 問 3 連結リストに対する処理時間の挙動
- 問 9 Web アクセシビリティを配慮した画面設計
- 問 18 アードバリュー分析
- 問 21 ITIL のプロセス
- 問 22 システム監査人が行った監査業務の実施記録
- 問 23 ビジネスアーキテクチャを策定する場合の成果物
- 問 25 RFI の説明
- 問 27 ラディカルイノベーションの説明

### 3. 午前 試験（多肢選択式問題）

全体をとおして午前 の難易度は前年のアプリケーションエンジニア試験の午前と比べて出題範囲は違いますが、難易度は同程度と判断します。新規問題としては、問 3 の BPMN、問 23 の SQL などがあり、特に注目する点はアプリケーションエンジニア試験のときは出題されていない SQL が出題された点です。難易度の高い問題としては、問 10 の日本において特許権の取得が可能なもの、問 18 の 2 元表を用いて重要性の高い品質要素を明らかにする手法、などが挙げられます。

### 4. 午後 記述式問題

問題によって、ページ数が3ページから5ページと大きく異なり、さらにページ数の多い問題は難易度が高いという出題傾向がある午後試験でした。具体的には、問1から問3までの情報システムの問題はページ数が多くて難易度も高く、逆に、問4の組込みシステムの問題はページ数が少なく難易度も低い問題でした。組込みシステムであろうと気にせず問題を選択した受験者は成功であったと判断します。

#### 問1 販売管理システム

問題全体としては、高頻出の販売管理システムをテーマにしているため、難易度が特に高い設問は少ないですが、各設問を解くのに時間がかかります。しっかりと時間管理をしないと、1問当たりの所要時間である45分を超過してしまう点に留意する必要があります。したがって、全体の難易度は「高」です。

#### 問2 物流システムの再構築

設問の前半は、業務課題、対応策、機能追加を問うなど、以前のシステムアナリスト試験(現ITストラテジスト試験)の出題傾向を継承した、物流システムの再構築をテーマにした問題です。設問の後半においても、同様に設問3(1)において「強みになる理由」が問われています。システムアーキテクト試験では新傾向の問題ですが、解答を導くための記述が問題文にあるので、全体の難易度は「中」程度です。

#### 問3 システム開発のテスト計画

システム適格性確認テストにおけるテスト日付を、順次に設定して、システム全体の機能について、業務が確実に遂行できることを確認するサイクルテストをテーマにした問題です。問題の途中に、小さいフォントで書かれた表1、表2があるために、実質的な問題量の多い問題といえます。通常では、難易度の低い穴埋め問題ですが、この問題では難易度が高めであることから、問題全体の難易度としては「高」と判断します。

#### 問4 新入退室管理システムの開発

組込みシステムとして、退出管理システムを題材にした問題です。問題文の量も3ページと少なく、題材も一般的な入退室管理を題材にしているため、組込システムについて勉強していない受験者でも高得点が可能な問題です。

一般的に、このように問題ページ数の少ない問題は解答の絞り込みが難しいのですが、この問題では、解答の絞り込みが容易であることから、設問の難易度は「低」と判断します。

### 4. 午後 論述式問題

例年どおり論述に必要なトピックは問題文に挙げられているため、難易度はアプリケーションエンジニア試験のときと同じ、例年どおりです。加えて、設問アで述べたことを踏まえる論旨展開が求められていることも去年どおりの出題傾向です。問3の組込みシステ

ムに関する問題において、設問イとウで問われている内容の粒度が細かいので、出題の趣旨に沿って論述することに細心の注意を払う必要があります。

#### 問1 要件定義

去年のアプリケーションエンジニア試験と同様、要件定義におけるヒアリングを中心に問う問題です。設問イの「どのような点に留意して」という問いに対して答えることがポイントです。対象業務の特徴やシステム開発の目的を踏まえていることを明示的に書くことが求められています。難易度は「中」程度です。

#### 問2 システムの段階移行

この問題では、第1にシステムの段階的移行における「並行運用期間」について問われていることを設問イの内容から確認しなければなりません。第2に、対応策を選んだ理由を業務の特性を踏まえて示す必要があります。これら2点に留意して論述することがポイントになります。難易度は「中」程度です。

#### 問3 組込みシステムシステムにおける適切な外部調達

システムアーキテクチャを設計する者を対象とした試験の問題にマッチした外部調達に関する出題です。この問題のポイントは、システムのアーキテクチャ設計を踏まえて、調達する部分を適切に選定したことを明示することです。その際、設問イでは本文中に示された四つの視点すべてからの論述が要求されています。出題の趣旨に沿った論文を完成させるには、これらの2点の条件を満足することが重要です。問題での要求事項が多いことから難易度は「高」程度です。

以上